

腺から乳が奔ばしり小兒が既に満腹した後でも矢張り其位でなければなりません、兎に角乳媪を雇ふ時に一日程留めて置いて小兒に乳を吸はして見るに、大概二十分間も哺乳して、乳を飲みながら小兒が眠る様であれば、この乳媪は十分小兒を養ふに足るものと見てよろしいのであります。いよゝ乳媪を雇ふたとなれば、其乳媪がこれまで食べつけた飲養物を急に變へない様に、なるべく今迄の習慣を守らせるのが宜しいのであります、然しこれで以て小兒が消化障礙を起していつ迄も癒らない様な場合には、止を得ず又乳媪を替へなければなりません、而して最初より三時間毎に規則正しく乳を與へる様にして、嚴重にこれを守らしめて勝手な時に乳を飲ませる様な事は爲てはなりません、最もか弱い小兒であれば一時間或は二時間毎に少しづつ、乳を飲せなければならぬ様な事もありませす。尚乳を與へる度数に就いて一言申添へて置きますが、始めの一週間は、九回、第二週後は、八回、一ヶ月の末には、七回、それから後は六回位の割合で、例へば午前の六時、九時、十二

時、午後の三時、六時、九時に乳を與へて、夜の九時から朝の六時迄の間に小兒の欲しがる時にも一回位與へてもよろしいが、これは最初の一周間の間として、其後は朝迄なるべく與へず眠らしめる、こう云うふうじに時間を守つて乳を與へまするならば、二十四時間に僅か、七回で澤山であります、最もこれとても、當り前の規則でありまして其小兒の強い弱いにも由り、又病氣の時などは醫者の相談を受けて多少變更しなければなりません。

婦人の服装

醫學博士 田代義徳氏談

婦人と袴 婦人の袴 學校に通ふ生徒は今日では殆ど皆袴を用ひて居ります、今から十四五年前私の長女が高等女學校に通つて居つた時分に、學校で、筒袖を奨勵したが、二年生位までは筒袖も宜しいが、最早三四年生の間には、あまり歡迎

されないので、遂に行はれず仕舞ひました、又實際此筒袖と云ふものは、どの位の年齢の生徒にまで宜いかと云ふことは、問題であります、私は袴の方は、必要に迫られて近き將來に於て學校の生徒以外に、家の中で働く人にも用ひる人が多くならうかと思ふ、何となれば先づ第一に勝手元の様子が是れまでとは大に變るだらうと思ふ、從來に躊躇んで働いたのであつたけれども近頃では、多くは立つて働くやうになつた、従て机を勝手に置き、其上で仕事をすることを下女が大層喜ぶやうである。勝手の都合がさう云ふ風になると、その擧動の上から何うしても着物の前がひろがり勝ちになつて、從來の前掛だけでは不十分になるであらうと思ふ、假令下婢は前掛だけで済ましても、奥さん方が臺所の事に干渉り、いろ／＼の監督をする場合に下婢と同じ前掛を用ひるよりは、體裁上から云つても寧ろ袴を穿くやうになりはしないかと思ひます、私は一體前掛と云ふものは、昔の袴の殘物だと思つて居ります、つまりその殘物が又元の袴に戻りはせぬかと思ふのです、そのみな

らず、これからの夫婦は大抵相携へて出掛ける、現に私共も山水に遊ぶにしても散歩に出掛けるにしても、大抵一緒に出るやうにして居ります、夫婦相共に歩くと云ふことになると、場合に依れば坂も登らねばならず、細い道も往ねばならぬこともありませう、それには現在の日本服は甚だ不適當であります、其上に大體に於て此世の中が繁雜になれば、總て婦人の動作の如きも、敏活でなければならぬ、即ち此世の中の要求に應じて、敏活にしやうと云ふには、先づ第一に其衣服に於て何等かの改良を施さなければならぬと云ふ問題の出で来るのは、誠に當然のことであると思ひます、昔は一寸しても婦人は足弱など、云ふことを言つたが、今日は婦人と雖も足弱では世に伴つて行くことは出来ませぬ。

△姿勢と袴 一般多くの婦人に袴を用ひらるゝ様になる、其姿勢の方にも自ら影響して、元來俯向き勝ちであつたのが、反身になつて來ます、日本の婦人が俯向き勝ちの姿勢になると云ふのは、着物の前のひろからぬやう氣を附けるからであつ

て、袴になるとそれに顧慮しなくなりますますから自然真直になつて居ることも出来ず、従て穿物なども、何等かの改良を加へ、靴に似たやうな形になりはせぬかと思ふ。

▲服装と建築 勿論穿物とか衣服とか云ふものは現代の建築と非常に關係のあるものですが、現在は新たに建築でもしやうとする人は皆和洋折衷にしますが、それでもこの疊と云ふものはなかなか廢めらるゝやうなことはなからうと思ふから、從て下駄など、云ふものも長く保存さるゝでありませうが、前に申す通り、袴だけは一番早く家庭に流行さるゝに至るであらうと思ひます、然らば日本婦人は、總て正装する場合にも袴を用ひると云ふやうなことが、近き將來にあるであらうか、それは少し疑問であります。

▲美觀を旨とす 此間某新聞に婦人の姿勢の好くないのは、婦人の帯や袴があまりに上過ぎるからである、成るべく帯や袴は下の方(腰の上)へ締めよと云ふ某氏の談が出て居りました、某氏が其通り言はれたのか何うか、私は直接に聞いたのでな

いから、決して攻撃をするのではありませんが、果して新聞の記事の通りに話されたものであるとすると、私はこれは到底行はれ難い説であると思ひます、何故なれば婦人の帯の腰の上あたり(現在の普通より下方)に締めた恰好は何うでありませうか、恐らく見好いものではなからうと思ひます、婦人の衣服は或程度まで其人に美觀を加へるものでなければ何の様に實利實益があつてもなか／＼輿論が之を容れませぬ、歐羅巴で婦人のコルセットは衛生上有害である或は婦人が長く裳を地に曳いて道を歩くのは裾に微菌の附く恐れがあるから、裳は短かくしなければならぬと云ふことを、喧しく唱道しても、一向行はれない、要するにこれは理想に止る事と思ひます。

▲帯の利害程度 婦人の俯向き勝ちの姿勢と云ふものは、帯の爲めと言ふよりは寧ろ衣服の前のひろがるのを懸念すると云ふ方に關係が深からうと思ひます、それから又平生家の内に在つて坐はると云ふ習慣が、大變婦人の姿勢を俯向き勝ちに示ると思ひます、其外婦人は幾分が恭謙の態度を示

す爲めに、俯向き勝ちになるもので、婦人の姿勢は其心理上からも説明し得る點があらうと思ひます、且つ又帯を現在の處に締めても、胃の工合を悪くするとか、消化を害するとか云ふことはなからうと思ふ、勿論正装した場合には、飽食するとは出来ないのので日本の婦人ばかりではなく、西洋の婦人と雖も、コルセットを強く締めますから充分に食事を取る事は出来ない、之を下帯の方に締めると云ふことは、婦人の姿勢を好くする原因となると思はぬ、其他にも帯の位地と云ふことはさして、衛生上に影響ありと思へません。

▲居室と衣服 家の建築と云ふことは、婦人の衣服の上に、大なる關係があります、即ち是れまでの様に坐つてばかり居るのならば、是れまでの衣服で差支はない、併し今日新たに建築さるゝ多くの家で、大抵皆和洋折衷である、然うすると勢ひ其衣服の上にも何等かの改良を促さるゝは當然であらう、從來の日本婦人の姿勢は、私の見る處では正装して坐つた形が、一番美術的で、風韻に富んで居ると思ふと云ふのは、從來の婦人服と云ふ

ものは、坐居に相應すべく研究されて居るのであらう、作法の上から云つても、坐つて事をするのが多く、立つて行くと思ふことは、臨時に起る所作であるから、坐つた姿に研究されたのは自然の結果であらうと思ひます、之に反して西洋の婦人は、其作法上より見ても建築の上から見ても立つて居る場合が多く、それ故に其立姿に最も意匠を凝らされて居る、彼の立派な夜會、園遊會などの場合にも盛装した婦人が、威儀を正して、歩いて往く様は誠に神々しいものであります、斯くの如く婦人の衣服と云ふものは、其建築と相俟つて、其姿を美ならしむべく、研究をされて居るものである、さすれば其建築が昔と違つて、和洋折衷になつたなら、衣服も亦改良を施さるゝは當然のことであらうと思ひます。

▲心理作用と態度 坐れば單に坐ると云ふこと一ツが、婦人の姿勢を俯向勝ちにしたのであるかと云ふに、決して左うではない、從來の教育が徒らに恭謙の態度と云ふことを主としたのも大に關係して居るのであらうと思ひます、併しながら恭謙

の態度のみが、婦人の美德ではないので、言語舉動を快活に發すると云ふことも、矢張婦人の美を増す大切なることでありますから、教育の標示が違つて來れば、自然婦人の思想上にも影響を及ぼし、其結果言語動作の上にも變化を來たしませう、假令又姿勢が反身になつたからと云つて、一概に驕慢に見えるると云ふことはない、彼の雛を御覽なさい、袴を穿いて居るから腰を張り、反身になつて居る、併しながら首だけは俯向いて此處に充分恭謙の態度を示して居ります、今後の日本婦人が袴を着けた結果として姿勢を真直に保ち、胸を出す様になつても、其人の心の持ち方と、それから又此頃のこなしに因て、從來日本婦人に認められた處の婦人美を維持することは充分出來ます、其外今後は其人の關係して居る仕事と其境遇とに因て、多少反身勝になつても、決して高慢らしく見えないやうにならうと思ふ、私の考へでは日本婦人が西洋婦人の如く、男女同權と云ふことを主張しないまでも自己の地位を向上させ、自分は夫の友達であると云ふ信念を堅くすると云ふことは、

最も大切なことであると思ふ、未だ現在の婦人は、夫の友達でなく、動もすれば夫の人形になつて仕舞ふものが少くない、勿論イブセンの人形家と云ふ小説を見て、西洋にも妻が夫の人形たるに過ぬ實例はない譯でもなからうが、今日多數の日本男子が、妻を内助者と認て居らない併し男子がいかに婦人を壓制しやうとしても、教育が進み、婦人に智識の増すに従ひ、婦人は自分から夫の相談相手になり、時には意見を述べると云ふやうに、婦人の思想が變つて參り、變つた思想は態度に出て來なければならぬ、例之ば複雑な社會の事情に婦人が必ずしも人の妻となつて世を送ることが出來ず、職業を求めて獨立生活を續けて行かなければならぬ場合が多あります、然う云ふ場合には婦人が徒らに柔美の態度では不可い、所謂可愛らしいとか可憐らしいとか云ふばかりでは不可い、何處かに氣高い處がなければならぬ賤業婦人の嬌艶な態度に對しては、不謹慎な男子は、遂に戯れの一言も言ふやうになるが、立派の婦人は男子をして失禮な言語舉動ならしめるだけの態度

がなければなりません、多くの人に交際をして行く上に於て、其人格の貴賤上下を識別するは、先づ第一に態度にあるのですから、婦人の態度が苟くも男子をして敬愛の念を起さしむるに足るものがなければならぬ態度をキチンとするには先づ第一に服装をキチンとするのが大切でございます、此事は萬國交際の頻繁な今日、決して忽にすべからざる問題であらうと思ひます。

▲將來の風姿 斯様な次第で建築の變化に伴つて婦人の服装も改良され、先づ第一に家庭に於て袴と云ふものが行はるゝに至るであらう、又夫婦相携へて旅行をすると云ふやうな場合にも、袴を着用する様にならうと思ふ、それから袴を用ひる關係から、頭には帽子を用ひるやうになるであらうと思ひます、一體今の束髪は、あまりに裝飾が少なくて、淋し過ぎるから、頭には是非何等かの美的裝飾が必要であります、現に看護婦の被つて居る復の帽子、あれは頭髪を散らさぬ様にと云ふのが表面の趣意ではあります、矢張り看護婦の頭に美觀を添へると云ふ意匠も之に加つて居るの

でありまして、婦人の服装の上には何處かに美を欲する婦人本來の天性が發揮されるのであります、又さうなければならぬのであります、現在の束髪の上に何等かの裝飾が施さるゝとすれば、私はさう遠くないうちに帽子が用ひらるゝであらうと思ふのです、現に今日でも幼さい女の子は、皆帽子を被つて居る、これが漸次大人にも及んで來るに相違ありません、併しながら公會の席上に於ける現在の日本婦人の服装と云ふものは、随分優美なものでありますから、今後と雖も此風は必ず

永く維持さるゝであらうと思ひます。
▲東西趣味の交通 袴を着け、帽子を被るやうになりますと、自然婦人の姿勢は眞直になります、殊に近頃は漸く世界が狭くなり、従つて各國の交通が頻繁になつて來ますので、互に其國風趣味まで、共通する様になつて居ります、日本には西洋の風が這入り、西洋には又日本の風が這入つて行きます、此程獨逸から歸朝した人の話に、元來彼地では壁に模様を付けたものであるが、近頃では日本の風を眞似て灰色とか其他一色を用ひ所謂華美な

るものよりも濛いものが流行して居るさうです、政治法律學術などの上に絶えず東西の文明が出入して居る通りに、美術的趣味も彼我互に交通して、婦人の風俗などは、常に此邊の變化を受けて居るのであります、要するに現在の日本婦人の衣服が、何時無なるかと云ふことは、建築に伴ふ問題で、殊に長い年月の間研究された正装の姿の如きは、日本婦人に好く適應して居るのであるから、永く維持せらるゝであらうが、併し或部分は必ず折衷さるゝであらう、否されねばならぬ必要があらう、それには何處よりか腰から下が早く折衷され、袴を用ひらるゝは將に近きにあらう、同時に帽子も用ひらるゝであらうが但し袂は長く、現在の儘に維持さるゝであらうと思ふのであります。(完)



お料理

みさを

一週間朝餐獻立

一、月曜日

一、オート、ミール

一、スライストース

一、菓物

オートミールは大匙二杯を一合の水に浸し一晚置きます、翌日これを弱火にてよく攪きまはしながら煮ます、そして煮えましたら深皿に取り砂糖適宜に牛乳五勺計りかけて出します。

スライストースは先づパンを一分位の厚さに切りましてテンピカストーブの中に入れて焼きますとバク／＼になりますから尙取り出して遠火で焼きまして一層カリ／＼に致してさまして置きます、そしてさめましたら一面にバターを塗りて皿に盛りて出します、此パンを焼きますのにテンピヤス